

アート開放区 人形町

次世代アーティストの活動を支援

スペース、タグボート

商業施設をはじめ、多彩な空間演出を手掛ける(株)スペースは9月3日、アート販売や関連イベントなどを行う(株)タグボート(本社東京、徳光健治社長)との共同プロジェクトとして、日本橋人形町にアートギャラリー「アート開放区 人形町」をオープンした。

ギャラリーの会場は、(株)スペースが所有するビル「SPACE ANNEX」の1階および地下1階のスペースを活用。広さ約200平方メートルの空間で、

若手アーティストの作品を月替わりで展示・販売するほか、次世代アーティストによるワークショップやイベントなどを予定している。

今回の共同プロジェクトに携わる(株)スペース・東京第2事業部・クリエイティブディレクター・澤田貴史事業部長は「会場としたANNEX館は、築60年以上のビルで、本社機能を移転してから、空白のまま4年が

経過していた。オフィスだった空きスペースの活用方法を検討する中で、次世代を担うアーティストが自由に発信できる場所、人形町という街の未来に貢献できる施設を目指す案が浮かび、同じ人形町でアートの販売・展示企画に取り組みタグボートにご協力いただき、新たにアートギャラリーとしてオープンした」と話す。

初回展示は、9月3

日〜26日(金)のまで間、「UNLABELED」をテーマに開催。出展アーティストは、新田亨二、Kanhasani、ホリグチシンゴ、北村環、小松良明、アンタカシタ、V.I.K.I、小木曾ウエイツ恭子、井口エリ、工藤千紘、中島友太、水野遙介、奥山鼓太郎、土屋靖之の14人が出展した(順不同、敬称略)。

展示作品は、QRコードを読み取ることで、よ

り詳細な情報が取得可能。また、会場展示に加え、タグボートのオンラインプラットフォーム上でも同時販売を実施しており、会場に直接足を運べない人でも購入することができ。

本展を企画した徳光社長は「現在当社では、140人以上のアーティストの作品を取り扱っており、年間を通して展示企画を実施することが可能。今回のテーマは、既

存のラベルやジャンルに縛られない、自由な表現を追求する若手アーティスト向けの企画として、UNLABELEDをテーマにした。今後も次世代を担うアーティストの活動を支援する展示企画を開催していきたい」と語る。

なお、同ギャラリーでは、異分野とのコラボレーションも視野に入っており、インタラクティブ

としても活用していくという。

【施設概要】
▽所在地／東京都中央区日本橋人形町3-6-9 SPACE ANNEX 1階・地下1階▽運営／(株)スペース・(株)タグボート
▽営業時間／午前11時〜午後5時45分(休廊日：土日祝)▽料金／入場無料・予約不要▽問い合わせ／03-5645-3242



① ギャラリー入口、② 1階展示スペース、③ 地下1階展示スペース

